



正田醤油株式会社 環境報告書 2011

正田醤油の概要

会社概要

創 業 : 明治6年12月25日
設 立 : 大正6年12月25日
代 表 者 : 代表取締役社長 正田 隆
資 本 金 : 1億円
従業員数 : 373名(男 282名・女 91名)
事業内容 : 醤油の醸造と加工調味料類の製造販売

事業所一覧

本社 ㊦374-8510 群馬県館林市栄町3-1
館林工場 ㊦374-8520 群馬県館林市栄町14-1
館林東工場 ㊦374-0001 群馬県館林市大島町東部工業団地6013
流通センター ㊦374-0001 群馬県館林市大島町東部工業団地6013
首都圏営業部 ㊦374-8510 群馬県館林市栄町3-1
東京オフィス ㊦170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-7
東北営業部 ㊦980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1-2-1 仙台フコク生命ビル6階
中部営業部 ㊦451-0043 名古屋市西区新道1-13-31 ブランドール4階
西部営業部 ㊦532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-1-1 新大阪プライムタワー17階

この環境報告書の編集方針

この環境報告書は、次のようにみなさまにご利用いただくよう考えて作りました。

- ・近隣のみなさまが安心してお住まいになられるため
- ・お客さまに当社製品を安心してご使用いただくため
- ・従業員の一人一人が環境に関心をもち環境保全活動に積極的に取り組むため

今後もみなさまのご意見をいただき、継続して発行していく予定です。

参考にしたガイドライン : 環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」

対象組織 : 本報告書では、正田醤油株式会社の国内における全事業活動を対象としています。

対象期間 : 2009年12月～2010年11月

発行年月: 2011年7月 品質保証部 ISO課

【次回発行予定: 2012年6月】

ごあいさつ

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

未曾有の大災害の後も、電力の供給不安、原材料や資材の不足など、生産活動への影響も少なくありません。その一方で、たとえば今回暫定的に施行された固有記号の規制緩和によって流動的に資材等が使えるようになり、結果として無駄なく有効な資材運用ができたというようなことも経験しました。「過剰」ということについて、考えさせられた出来事でもあります。「適正さ」「バランスの良さ」が、環境にやさしい生産活動につながっていくのかもしれない。

正田醤油は、環境マネジメントシステムを確固たるものとするため、本社・研究部門と全ての生産拠点(館林工場、館林東工場、正田フーズ本社工場、正田フーズ館林工場、正田食品伊勢工場、正田食品水戸工場)でISO14001の認証を取得しました。また、経営においても、「環境への配慮」が当社の重要な課題であると認識し、「第6次中期経営計画」には「環境負荷の低減」および「環境活動への意識向上」を環境活動方針として掲げています。これらの方針を具体的な施策に落とし込むことで、社員全員でさらなる環境保全・改善に取り組んでまいります。たとえば、クール・ビズ、ウォーム・ビズの実施、社員とその家族による館林市内のクリーンアップ作戦、生産施設での設備見直しや工程改善などを継続的に実施しており、これらの省エネや清掃活動などを通じて、社員一人ひとりが「環境への配慮」の大切さを実感することの積み重ねが課題解決にとって大変重要なことと考えております。

正田醤油が果たすべき社会的責任の中の一つとして、環境への取り組みをより充実させる必要性を強く感じております。お客様、地域社会、社員をはじめとするステークホルダーの皆様の声を聞き、「安心」「安全」はもとより「環境」についての取り組みを誠実に実施していきたいと考えています。皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年7月



正田醤油株式会社
代表取締役社長 正田 隆

環境マネジメント

ISO14001 認証

正田醤油では、1998年度から「環境にやさしい企業の実現」を目標に掲げ、環境保全に取り組んできました。その上で、これをさらに確実にするために、国際規格であるISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、2004年に本社、研究所で認証を取得いたしました。以来、毎年認証の範囲を拡大しており、2007年取得の正田フーズ館林工場を皮切りに、関連会社への拡大を進めました。

- 2004年 5月 本社、研究所(館林市) 認証取得
- 2005年 7月 館林工場(館林市) 認証取得
- 2006年 6月 館林東工場、流通センター(館林市) 認証取得
- 2007年12月 正田フーズ(株)館林工場(館林市)【旧: 正田食品(株)】認証取得
- 2009年 1月 株式会社正田食品伊勢工場(三重県松阪市) 認証取得
- 2010年 1月 株式会社正田食品水戸工場(茨城県東茨城郡) 認証取得
- 2010年 1月 正田フーズ(株)本社工場(栃木県佐野市)【旧: ヤマト産業(株)】認証取得



環境方針

正田醤油 環境方針

環境理念

正田醤油は、地球環境の保全が人類の未来を保障するために不可欠であることを認識し、地球環境の保全に努め、安全で健康な社会づくりに貢献します。

行動指針

1. 商品開発・生産・販売活動すべてにおいて、地球温暖化防止、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、再資源化に努めます。
2. 環境法令などを遵守するとともに、自主基準を設定し一層の環境保全をはかります。
3. 環境目的・目標を定め、PDCAサイクルをまわすことで、環境マネジメントシステムの継続的改善と環境負荷の低減に努めます。
4. 環境活動への意識向上をはかり、全員で環境改善に取り組みます。

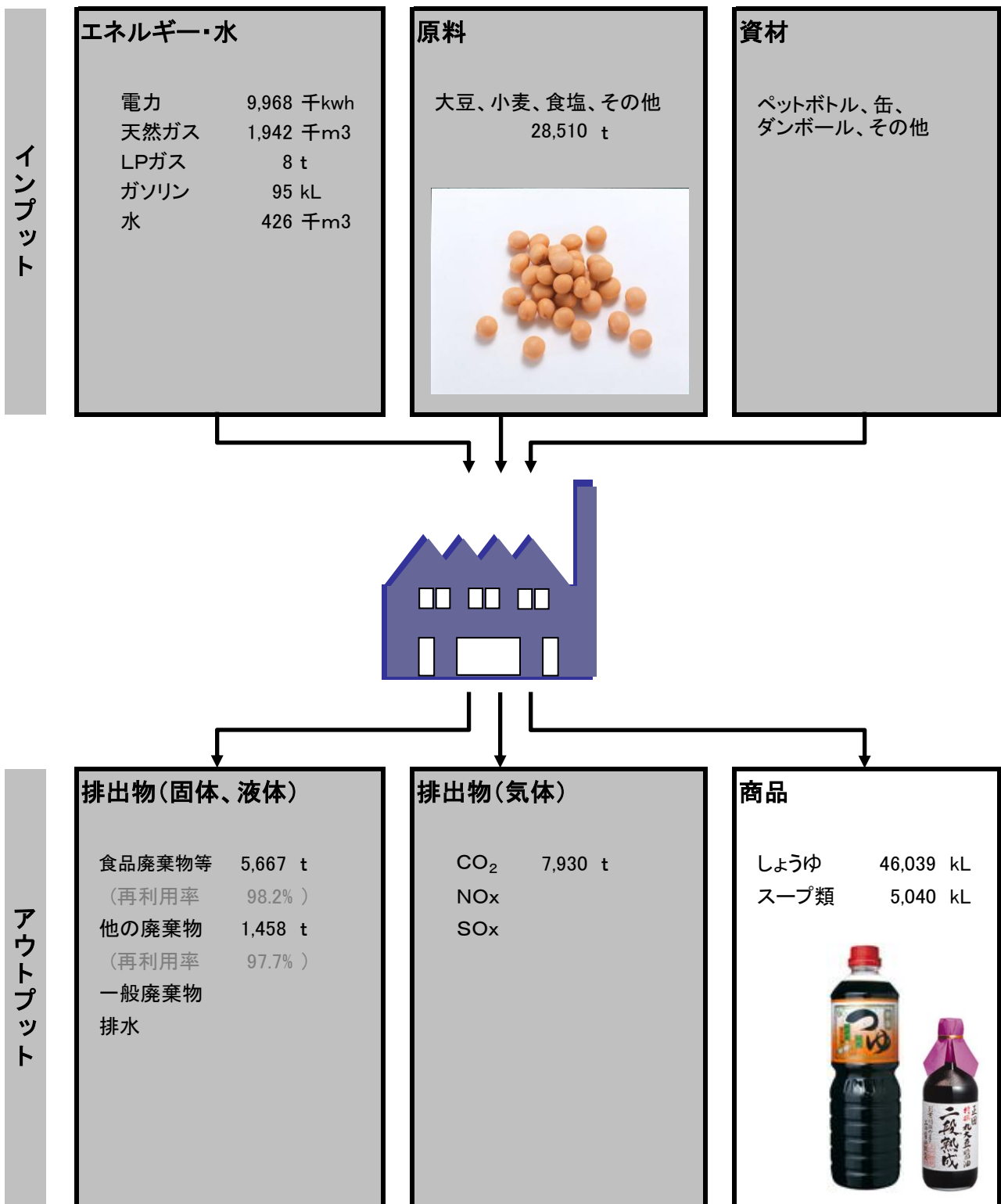
2008年1月 代表取締役社長 正田 隆

正田醤油の事業活動と環境のかかわり

正田醤油の事業活動が、環境に影響をおよぼすことを意識し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

エネルギー・資源・排出物のフロー(2010年度)

正田醤油では、しょうゆやスープ類を製造・販売し、またタバスコやワインなどの輸入品などの販売もしています。これらの事業活動においては、原材料だけでなく、エネルギー、水などを使用し、CO₂や廃棄物などを排出しています。そのため、正田醤油では、開発、生産、流通といった事業活動の各段階で、これらの環境負荷を低減するように努めています。



取り組みの成果

2010年度目標と中長期目標の報告

	2010年度目標			2010年までの中長期的な目標		
	目標	結果	評価	目標	結果	評価
地球温暖化防止	CO2排出量を 8,450t以下	7,930t	○	2010年までにCO2排出量を 2002年度比△6%	△17%	◎
廃棄物の削減	在庫・資材の廃棄物を 売上の0.1%以下	0.17%	×	在庫・資材の廃棄物を 売上の0.1%以下	0.17%	×
再生利用率の維持・向上	動植物性残渣95%以上 その他90%以上	①98.2% ②97.7%	○	動植物性残渣95%以上 (うち醤油粕、醤油油99%以上) その他90%以上	①98.2% (100%) ②97.7%	○
環境マネジメントの 推進	—	—	—	2009年度 ㈱正田食品水戸工場、 ヤマト産業㈱のISO14001取得	取得済	○

※1・・・CO₂排出量はエネルギー由来(電気(東京電力係数使用)、A重油、天然ガス、LPガス、軽油、ガソリン等)で算出

※2・・・中長期目標より厳しい目標値を設定

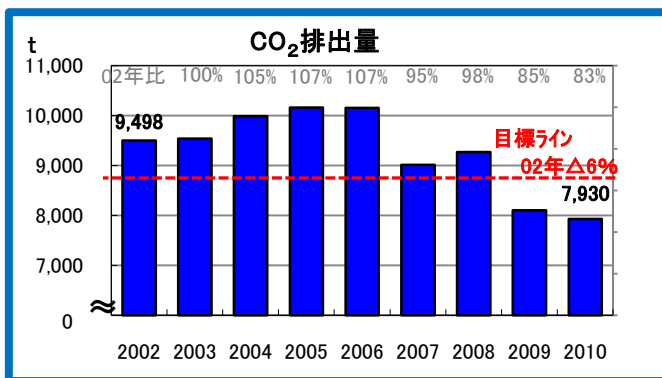
正田醤油では、中長期目標として、2010年までにCO₂排出の削減、廃棄物の削減、ISO14001拡大について取り組んできました。

その結果は以下の通りです。

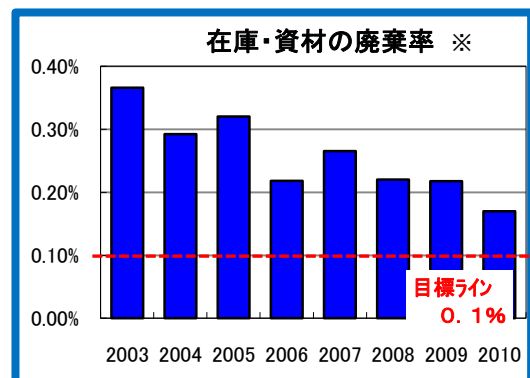
- ・CO₂排出量の削減は、2002年度比マイナス17%と目標を大幅にクリアする事ができました。
- ・在庫・資材の廃棄物削減は、目標達成まではいきませんでした。プロジェクトの効果が出て、徐々に削減に向かっています。
- ・再生利用率は醤油粕、醤油油は100%を維持しており、それ以外の動植物性残渣は97%以上、その他は95%以上を維持しております。
- ・ISO14001の拡大も計画部署について全て取得することが出来ました。

データ

●地球温暖化

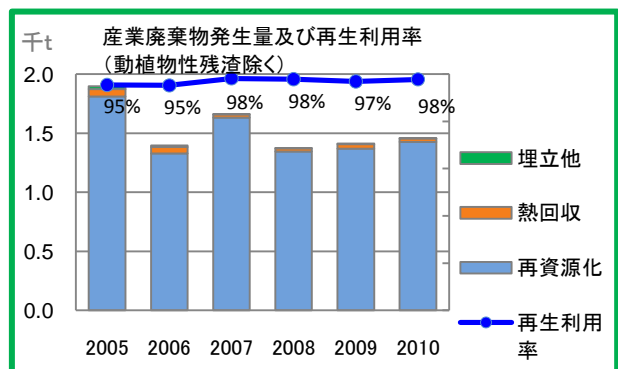
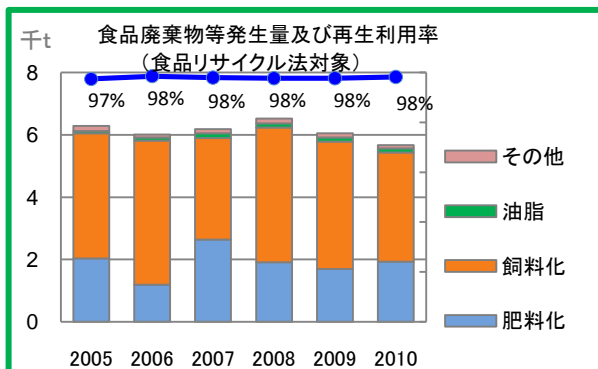


●廃棄物の削減



※廃棄物量は売上金額に対する廃棄物(在庫、資材)の金額比率で表しています。

●再生利用率の向上

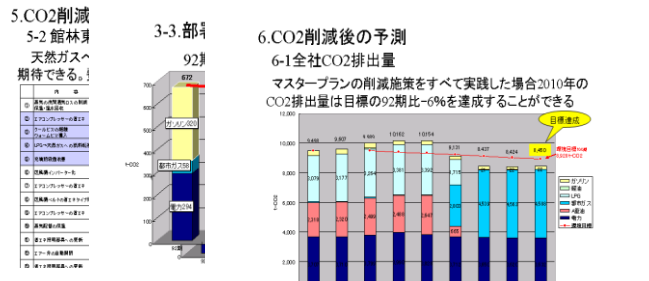


具体的な活動1 地球温暖化防止対策

地球温暖化防止のため、館林東工場ではそれぞれの工程で使うエネルギー量を測定し、分析することで、むだなエネルギーを使わないように管理しています。また、営業車にハイブリッドカーを使用するとともに「正田Eco-style」運動として通年の冷暖房温度を管理するなど、省エネルギーについては全社で取り組んでいます。

CO₂削減計画の策定

2010年度には、2002年度比で電気・燃料由来のCO₂を6%削減する予定のところを17%削減出来ました。2011年度より新たな目標を設定し、具体的な施策を年度毎に計画し、今後もCO₂削減に努力してまいります。



工場における省エネ

館林工場および館林東工場では、2007年度前期にボイラーに使用している燃料をA重油やLPガスから天然ガスに転換しましたが、このことにより大きなCO₂削減効果が見られました。基幹工場でのこうした取り組みは当社のCO₂削減にとっても大きな効果があります。

正田Eco-Styleの実施

正田Eco-Style

「正田Eco-Style」運動にご理解とご協力をお願いします

正田醤油株式会社では、事業目標の一つとしてCO₂排出量を2010年までに2002年度の6%減とすることを掲げております。

その目標を達成するための手段として以下のとおり室内の冷暖房温度を設定させて頂いております。

- ・「Eco-Spring」 4月1日～5月31日 冷暖房の使用を控える
- ・「Eco-Summer」 6月1日～9月30日 冷房28℃以上
- ・「Eco-Autumn」 10月1日～11月30日 冷暖房の使用を控える
- ・「Eco-Winter」 12月1日～3月31日 暖房20℃以下

また、弱冷暖房下でも効果的に働くことができるように「正田Eco-Style」運動として、通年のエコ・コンシャスな服装での勤務を奨励しております。

皆様方には御苦しい点もあるかもしれませんが、主旨をご理解頂きご寛容賜りますようお願いいたします。

正田醤油株式会社
代表取締役社長 正田 隆

正田Eco-Styleとして年間を通しクール・ビズ、ウォーム・ビズを実施しています。

ハイブリッドカーの導入

1998年から営業車を中心に、ハイブリッドカーの導入を進めてきました。ハイブリッドカーは現在19台あり、正田醤油で使用している全車両の約3割がハイブリッドカーになっています。



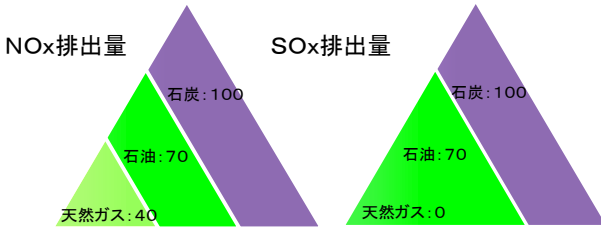
具体的な活動2 工場における環境保全活動

正田醤油には、東武鉄道・館林駅前の館林工場と、東北自動車道沿いにある館林東工場の2つの工場があります。館林工場は市街地に隣接していることが、館林東工場は年々生産設備を増強していることが特徴であり、その特徴にあわせて環境保全に取り組んでいます。

環境関連の法規制の遵守

2010年度に関して、法規制を逸脱するようなことはありませんでした。今後も引き続き法規制が遵守できるように管理を行って参ります。

大気汚染の防止



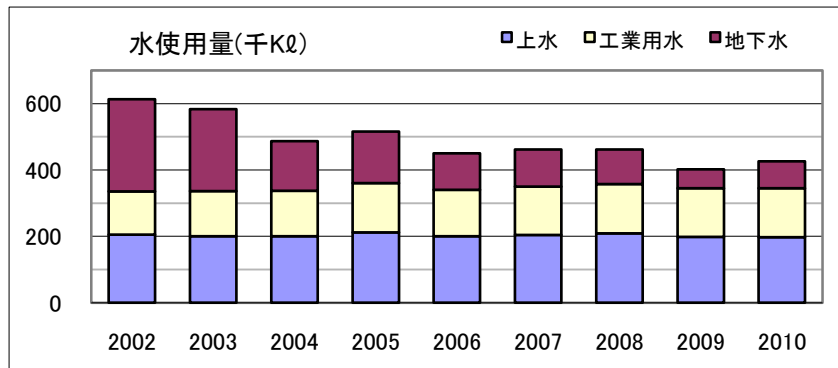
「天然ガスー2010年の展望ー」(1987年3月)／OECD・IEAより

館林工場はA重油から、館林東工場はLPガスから、よりクリーンな天然ガスに変換しました。

天然ガスは、燃焼した場合、地球温暖化を引き起こすCO₂や光化学スモッグの原因となるNO_x(窒素酸化物)の排出量が石油や石炭に比べて少なく、また酸性雨の原因となるSO_x(硫黄酸化物)や煤塵(ばいじん)の発生は全くありません。

水の節約

館林工場では、2003年度に麹製造に使用する空調機を変更することによって、地下水の使用を大幅に削減することができました。その後も節水に努めることにより、使用量の増加を防いでいます。



黒かびの発生防止

しょうゆや酒の工場の近辺では、黒かび(オーレオバシジウム属)が発生し、屋根や壁などが黒く汚れることがあります。

この黒かびは、しょうゆの醸造中に生成するアルコールを栄養源とするため、工場ではアルコールの回収装置を設置し、黒かびの発生防止をしています。なお、この黒かびはどこにでもいる微生物で病原性はありません。



館林東工場の見学通路にSOLATUBEを設置



館林東工場の見学通路にSOLATUBE(ソーラチューブ:ウシオライティング製)を設置しています。

SOLATUBEは、無限に降り注ぐ太陽光を屋根面より採光し、屋内に取り込むことで、照明用として有効利用したもので、電気を使用せずに屋内を明るくします。

具体的な活動3 その他の取り組み

正田醤油では、すべての事業活動で環境に配慮するように努めています。その事例を次のようにご紹介します。

醤油カスの再生利用

しょうゆ製造時の副産物であるしょうゆ粕は、100%飼料や肥料としてリサイクルされます。

グリーン購入の推進

グリーン購入の推進のために、オフィス用品や作業着などに環境配慮品を優先して購入するようにしています。

環境に配慮した容器・包装

お客様がご使用になった後の容器・包装の環境負荷を減らすために、しょうゆペットボトルには取り外しできるキャップを採用しています。また、容器・包装には塩素を含まない素材を使用することで、廃棄後にダイオキシンなどの発生のないように配慮しています。



環境に配慮した新本社屋

正田醤油の新本社屋は、しょうゆの仕込蔵を改装して2004年11月1日に竣工いたしました。この新本社屋の建設に際しては、古材を積極的に再生利用し、また設備では環境配慮した最新鋭の技術を集約しております。このことが高く評価され、新本社屋は(社)建築・設備維持保全推進協会が主催する「第16回BELCA賞(ベストリフォーム部門)」を受賞しました。

BELCA賞: 適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なもの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。



クリーンアップ正田ウォーキング大会

「第8回クリーンアップ正田ウォーキング大会」を2010年9月11日に実施しました。この企画は2002年度からの恒例行事として、ごみ拾いを通じて環境問題への意識を向上させるとともに、健康の維持も兼ねた、社員とその家族によるボランティア活動です。今回は、館林市の名所である「県立館林美術館周辺」で行いました。

